防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第142号(2019. 1. 1)
事務局 川西地区自主防災会

謹賀新年

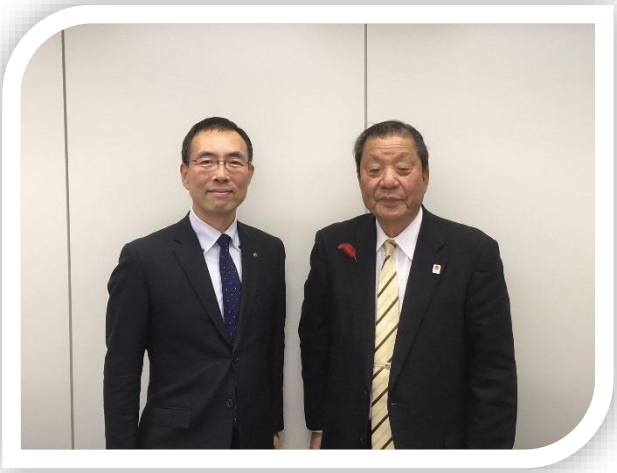
今年もよろしくお願いいたします！

新春対談

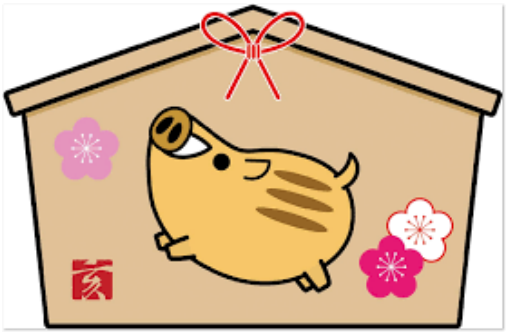
香川県危機管理総局長の土岐敦史氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩﨑正朔氏のお二人に、新春対談をお願いしました。司会は香川県危機管理課の柴田さんです。

【司会】
それではまず、昨年のことから振り返りましょう。昨年の防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞は、かがわ自主ぼうにとって、これまでの努力が実った出来事だったと思いますが、岩﨑会長、感想をお聞かせください。

【岩﨑会長】
あけましておめでとうございます。
内閣総理大臣表彰受賞に際しては、やはり、身が引き締まるというか、みんなが今まで頑張ってきた事が身を結んだと感じました。この受賞を、更に前へ踏み出すためのステップにして、今後ますます、地域防災力の強化に踏み出していこうと考えています。



【土岐総局長】
　あけましておめでとうございます。今年が、穏やかな明るい一年となりますよう心から願っています。
　前回の川西地区自主防災会の受賞と併せると、２回目の内閣総理大臣表彰ということで、会長を先頭に、過去から継続して取り組まれてきた成果であり、非常に素晴らしいと思います。
　私に関して言いますと、昨年の春に赴任したのですが、初めての防災部局ということもあり、いつ何があるか分からないという緊張感の中で、今日まで過ごして参りました。ただ、初めての分野で勉強を進めるうちに、県で出来る事には限りがあるということを、日々感じるようになり、住民の皆さんの「自助」、「共助」の取組みが非常に大事だなぁと思うようになりました。そのような「地域の力」について、かがわ自主ぼうの皆さんに、引っ張っていただいていることを非常にありがたく感じます。
今後も、ぜひよろしくお願いいたします。



【司会】
　昨年は、１年を表す漢字として「災」が選ばれるほど、災害が多い年でしたが、いかがでしたか。

【総局長】
　私が赴任してからだけでも、４月の島根県西部地震、６月の大阪府北部地震、９月の北海道胆振東部地震と続けて大きな地震が発生するほか、近県でも大きな被害のあった７月豪雨や４度に渡る台風の襲来など、数多くの災害が発生しました。
　特に７月の豪雨災害では、200 名もの犠牲者が出ております。
かがわ自主ぼうの皆さんは、被災した岡山県真備町の方へ支援に行かれておりましたが、どんな状況でしたか。

【岩﨑会長】
　計２回、延べ 120 人ほどで支援に向かい、活動としては、主に屋外で土砂の撤去や畳・家具の搬出整理を行いました。その際に聞いたお話ですが、真備町役場にほど近い 35 世帯ほどの小さな自治会で、防災マップを行政からもらいましたが、訓練をしたことがないという状況の自治会において、結果として、残念ながら３人の方が豪雨で亡くなられたそうです。避難所である真備町役場からは、近い人だと 100mほどしか離れておらず、すぐ避難できる地域であったので、なおさら残念な思いがしました。
　他に、100 世帯ほどが暮らす別の地域においては、発災時に住民の皆さんが声を掛け合って、早め早めに行動し、地域みんなで揃って高台に避難するとルールを決めており、７月豪雨の際も実際に避難し、犠牲者が出なかったというお話も伺いました。常日頃の備えがここで発揮されたのだ、と改めて実感しました。
　また、洪水害の被災地支援は初めてだったのですが、独特な下水道の臭いや泥が乾くことで起こる土ぼこりなどが酷く、更には、真夏で、かつ、休憩場所などもない状

況ですので、体調に気を付けることも重要でした。２回目以降は、テントなどをあらかじめ用意して行きました。

【土岐総局長】
　支援する側も体調等に気を付けなければならないということですね。
　被災地の支援をすることで、被災からの復旧に関するノウハウを得ることができるほか、自分が被災した際には、こういう風になるといった危機感を感じ、また、知ることができ、発災に対する準備・対応も違ってくると思います。

【岩﨑会長】
　今回、ボランティアの受入窓口であったのは、社会福祉協議会でしたが、窓口担当が毎日変わることで、混乱が生まれるなど、対応がうまくできていなかった部分がありました。固定の担当を置くなどの工夫が必要であると感じました。

【土岐総局長】
　ボランティアの受け入れにも様々な難しい部分がありますし、受け入れに関する訓練、もう一つ言うと、慣れも必要ですね。
　他に、豪雨の際に問題となった逃げ遅れについてはいかがでしょうか。

【岩﨑会長】
　要配慮者の方について、常日頃からデータベースを整備して、かつ、その人の避難支援をする人まであらかじめ、決めておくべきだと思います。そうすることで、間違いなく犠牲者は少なくなります。また、そうなると、民生委員だけでは、手が回らないので、ご近所の「共助」による避難支援が必要になります。

【司会】
　会長は、どのような支援の取組みを行われているのですか。

【岩﨑会長】
　私の組織では、「支援隊」と名付けて、10 年前から、１人の要配慮者の方に３人の支援者を設定しており、毎年訓練も行っています。支援者は、自治会長から推薦された方で、要配慮者の方とも顔なじみです。また、支援者の生活スタイル毎に支援できる時間が異なるため、隙の無い支援ができるようにと考え、色々な組み合わせの３人を設定する事にしています。
　また、自治会・自主防災組織の会長、役員等が、発災時に住民に避難を呼びかける体制を作っておくことで、実際に避難する方が増えると思います。私の組織では、15

世帯くらいの班の班長にその役割を担ってもらっています。

【土岐総局長】
　要配慮者の方への支援のほかに、率先して避難しつつ、住民に避難を呼びかけるリーダーの設定も重要だということですね。
　本県も７月の豪雨に当たっては、本県から緊急消防援助隊を派遣しており、あまり知られていませんが、広島県において、本県の防災航空隊が、孤立した地区から 56 名もの方を救助しており、行政としてお役に立てた場面がありました。一方で、個人宅の土砂の撤去や畳の搬出、避難所でのマッサージなどのケアなど、ボランティアの方の力が強く発揮された場面もあったとお聞きしております。

【司会】
　続いて、今年の抱負についてお聞きしたいと思います。

【岩﨑会長】
　近年実施しているシェイクアウトプラスワン訓練について、プラスワン訓練をきっかけとして、自治会や自主防災組織の皆さんと地域にある企業の皆さんがもっと連携を深められるようにしたいと考えています。訓練にとどまらず、他の防災対策でも連携が取れるようになってくれたらと思います。
　また、プラスワン訓練をはじめとする訓練等のマニュアルを作成して、関係団体、福祉団体にも共有して、訓練ノウハウ等の水平展開を促進したいと考えています。

【土岐総局長】
　県では、大規模水害の対策協議会において、避難行動要支援者の方が利用される施設等における避難のあり方が検討されているところで、今後、更に対策を進めていかなければならないと考えております。
　また、昨年の被害を受けて、ハード整備についても、国において重要インフラの緊急点検がなされ、対応していくこととしていますが、本県においても、それを踏まえながら、必要な部分について着実に対応していかなければならないと考えています。
　ソフト面の整備においては、住民の方の防災意識が高まるような取組みを行いたいと考えています。例えば、昨年のシェイクアウトの際に行ったような家具の転倒防止や家庭における備蓄などの啓発を行いたいと考えています。
　かがわ自主ぼうにおかれては、様々な取組みを行われており、また、様々な団体と繋がりがありますが、何か良い事例などご存知であれば、ご紹介いただけたら幸いです。

【岩﨑会長】
　家具転倒防止については、丸亀市社会福祉協議会が 85 才以上の家庭について、支援していると聞いております。また、社協が中心となって防災訓練を行っている地域

も多くありますので、社協と協力のもと、家具の転倒防止などの啓発を行うのも効果的であると思います。住居の中に入る事が必要な家具転倒防止対策においては、その点が大きなネックになりますが、自治会・地域と一体となっている社協であれば、住民の方も受け入れやすいと思います。さらに、社協は婦人会や民生委員など様々な機関とのネットワークも持っているので、それも活用できれば、なお良いと思います。

【土岐総局長】
　なるほど、自宅などパーソナルな部分に他人が足を踏み入れることへの忌避感の緩和が必要なことは、被災地支援の場においても言えることですね。

【司会】
　家庭での備蓄に関する取組みに関してはいかがですか。

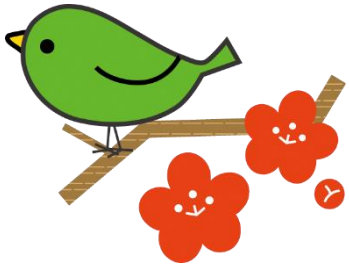
【岩﨑会長】
　川西地区については、備蓄をしていない方が多いので、自治会単位で備蓄することとして、不足が出る場合は、コミュニティ協議会がそれを補う体制を作っています。現在のところ、2,500 人から 3,000 人程度が１週間飲食できる分の備蓄をしています。

【土岐総局長】
　かなりの量ですが、どんなものを備蓄しているのですか。

【岩﨑会長】
　農家の方から譲り受けた大型の冷蔵庫に備蓄しています。秋に農家の方から新米を購入して、１年後に半額か６掛け程度で、売却して、また農家から購入するという形で更新しています。
　非常食が続くと、やはり、避難者の方に悪影響が出る場合があると思いますので、温かい食事、例えば白米、味噌汁、漬物といった簡単なもので良いので、なるべく早く提供するために、米を備蓄しています。

【土岐総局長】
　やはり、非常食など冷たい食べ物が続くと、気持ちが落ち込みますから、温かい食べ物を食べることで、元気が出るでしょうね。本県では、県と市町で１日分、流通備蓄で２日分、計３日分備蓄を行うこととしておりますが、避難等が長期間に渡ることもありますので、３日分以降の備蓄について、家庭における備蓄が広がるよう啓発を継続していきたいと考えています。

【司会】
　本県においても様々な事業を通じて、自主防災組織の支援を行っておりますが、特に自主防災組織のリーダー養成について、リーダーの見つけ方のコツをお聞かせください。



【岩﨑会長】
　どんな場でも、大きくはっきりと話せて、行動できる人を見つけることが必要だと思います。
　例えば、運動会や祭りなどの地域の行事で、元気にやっている方がいると思いますが、そういった方の元気のベクトルを自主防災の方に向くように誘導できれば、リーダーになってもらえると思います。
　私の組織でいうと、あと数年で定年を迎える 50 台後半の方に活動への参加を積極的に呼びかけて、後継者育成を図っています。

【土岐総局長】
　まずは、若い方に地域の防災活動に参加いただける環境づくりが必要ですね。
川西地区では、今年、地区防災計画を作成されたとのことですが、そちらはいかがですか。

【岩﨑会長】
　地区防災計画を作ることで、地域を総合的に把握でき、この部分が出来ている、あの部分が出来ていないなどを全体的に確認できますので、今後の展望について、組織で話すときに、課題が明確になり、共有や議論がしやすくなりました。
　また、地域・組織を客観的に見たことで、状況を改めて確認・把握できたので、学校や福祉団体など、他の組織に対する助言等を行う際に、自地域・組織の事例や考え方を引用・応用しやすくなりました。

【土岐総局長】
　なるほど、これまでの活動の整理になって、何をしているかがはっきり分かるわけですね。

【司会】
　他に、聞きたいこと、話したいことはございますか。

【岩﨑会長】
　それでは、私から、７月豪雨において、情報伝達の方法が問題となっておりましたが、そのことについて、県の新しい取組みはありますか。

【土岐総局長】
　新たな取り組みとして、本年４月から１年かけて、防災情報システムの利便化のた

めの改修を行うこととしているほか、スマートフォンで使用でき、自分のいる場所が災害等の際に危険なのか確認できるような防災アプリを新たに作成しようとしておりますので、完成の暁には住民の皆様にぜひ御活用いただきたいと考えています。

７月豪雨の課題に関する住民の方向けのアンケートを現在香川大学と協力して、行っているところですが、こちらも参考にしつつ、どのようにすれば、住民の方がスムーズに的確に避難を判断し、避難できるかについて検討を進めていきたいと思います。

また、気象情報も工夫されて、分かりやすくなってきていますが、７月豪雨の際に、やはり分かり難いと問題になり、国においては、５段階の警戒レベル分けで発表することを検討しているようですが、いかがお考えでしょうか。

【岩﨑会長】

今までの避難情報と新しい避難情報とのずれが起こらないように地域で、知識として、十分に確認しておくとともに、長年の経験、感覚、降水量、河川の流水量や水位で判断するといった感覚的なものも含めて、避難に関する調整が必要だと思います。

【司会】

まだまだ談論風発といったところですが、このあたりで、新春対談を終わらせていただきたいと思います。本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。

事務局だより

平成31年　1月

新年明けましておめでとうございます

年頭に当たり事務局より、各々本年の抱負を紹介したいと思います。

事務局長　松岡静男氏

災害の多い日本列島。防災は日頃の備えが一番。
“災い転じて福となす”
災害時の知識･スキル･自覚を広める地道な活動を通して地域防災実働力の向上をめざし、心ひとつに歩みを進めましょう。
本年もよろしくお願いします。

事務局　会計・書記担当　山崎香里氏

かがわ自主ぼうで活躍されている中心メンバーは皆さん私の親世代(70 歳代)です。
いつも皆さんにパワーをもらっています。ただ、やはり「お年には・・・」
皆さんが活躍中、けがすることなく無事であるよう願うしだいです。
微力ですが、何かお手伝いできるよう努めたいと思います。

事務局　広報・発送担当　曽根勢津雄氏

今後予測される大災害に備えてかがわ自主ぼうの組織の拡大と防災活動に参加しましょう。

事務局　広報編集担当　寒川里美氏

地元に根差した活動を日々続けていく、これは本当に大変なことです。
この地道な活動がこれからの若者たちに繋がっていくと信じております。
皆様の益々のご健勝を願っております。

編集後記

今月の防災減災の輪は、香川県危機管理総局長の土岐敦史氏とかがわ自主ぼう連絡協議会会長の岩﨑正朔氏のお二人の、新春対談を掲載させていただきました。ありがとうございました。